

平成28年度 全国学力・学習状況調査

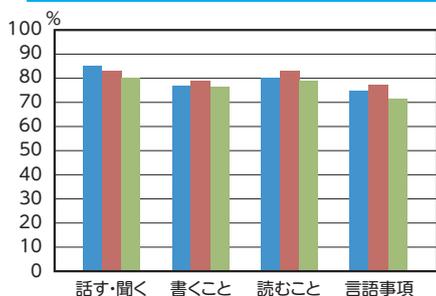
今

年度の全国学力・学習状況調査は、ほとんどの公立学校が参加して実施されました。町でも小学校6年生と中学校3年生が国語と算数・数学の2教科において、基礎的知識を問う「A問題」と知識を活用する力をみる「B問題」にそれぞれ取り組みました。

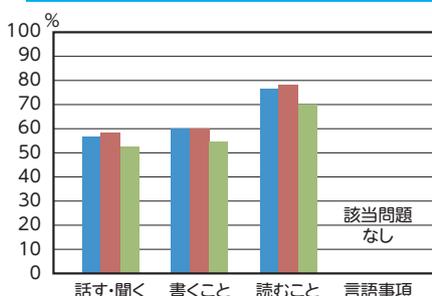
概要

■美郷町 ■秋田県 ■全国

小学校【国語A】

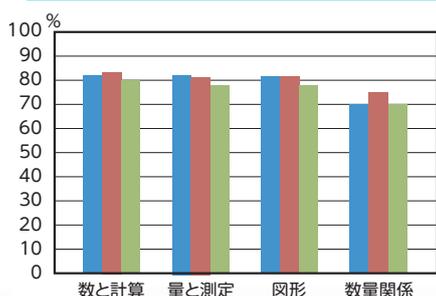


小学校【国語B】

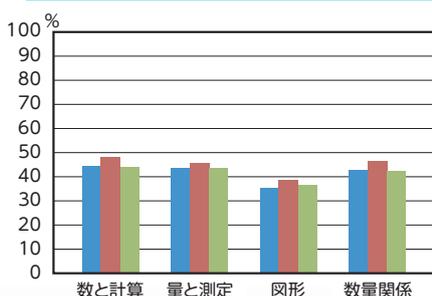


すべてにおいて全国平均正答率を上回り、良好と言えます。中でも、昨年度まで課題だった「書くこと」がB問題で県平均正答率を超し、取組の成果が表れています。反面、「読むこと」が国語A・Bともに県平均正答率を下回り、課題といえます。

小学校【算数A】



小学校【算数B】



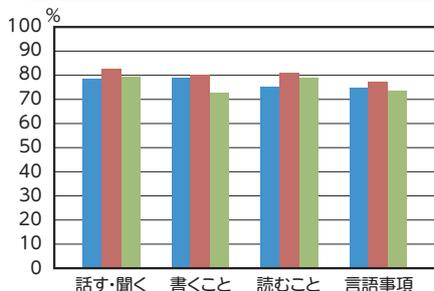
算数Aは、「数と計算」「量と測定」「図形」領域で県平均正答率を超すか同等の数値であり、良好です。一方、算数Bでは各領域で県平均正答率を若干下っており、課題といえます。特に「数量関係」領域は、算数Aでも県平均正答率を下っており、重点的な課題として克服に向けた取組が必要です。

学力調査の結果

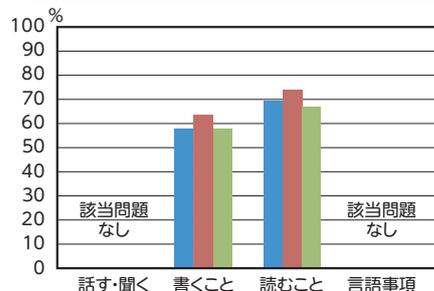
総評

町内各校では、4月19日の調査終了直後に自校で採点を行うことで状況を把握して、既に課題の克服に向けた取組を重ねてきています。今後は、今回の結果を踏まえてさらに児童生徒個々の確かな学力の向上に向けた指導の充実が図られることとなります。これからも、調査結果を冷静に捉え、正確な現状把握と詳細な分析に基づいて授業改善を推進することで、子どもたち一人ひとりの可能性を十分に伸ばすことに努めていきます。

中学校(国語A)

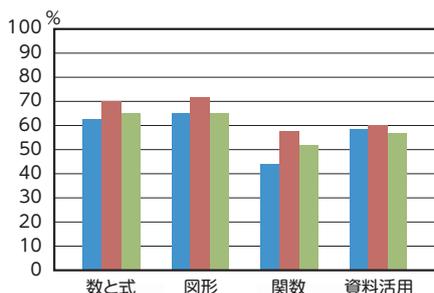


中学校(国語B)

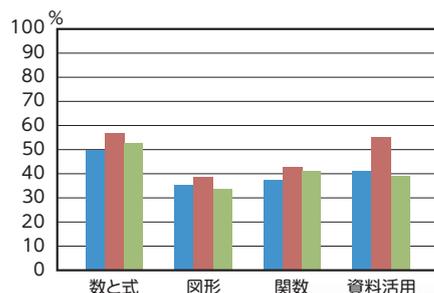


「書くこと」「言語事項」は、県平均正答率をやや下回るものの、全国の平均正答率を上回り、一定の成果が得られました。「読むこと」は国語A・Bともに県平均正答率に達せず、課題といえます。正確な読み取りとそこから得られた情報を整理したり、自分の考えと比較したりする力の伸長が求められます。

中学校(数学A)



中学校(数学B)



「資料活用」は数学A・B両方で全国の平均正答率を上回っています。昨年度は県平均正答率を超えていた「数と式」は今年度マイナスに転じています。他の領域も県平均正答率に届かず、課題といえます。基礎的な知識・技能の定着と、それらを活用して課題解決に向かう力が求められます。